

オアシス21

症 例 概 要 入所者氏名： T.O 様 女性 60代 要介護度 4

病名：脳梗塞後遺症（右片麻痺・失語症・失行）

経過：H29年7月、自宅で尻もちをつき、右片麻痺出現。左中大脳動脈領域に広範な脳梗塞（一部出血性）が認められた。回復期病棟へ転倒しリハビリを続けていたが、車いす全介助、失語症の残存など後遺症は高度であり、自宅退院が困難であったため、今後の療養先の検討、リハビリの継続を目的に当施設に入所することとなったご利用者

はじめはコミュニケーションも消極的で「よくなる見込みが無いから言語訓練はしません」と仰っていましたが、多職種が連携して本人の希望「息子さんのライブに行きたい」を聞き出し、これを実現。ご本人に輝きの1日を感じていただいた症例。

内 容

まだ60代と若い年齢での脳梗塞発症、失語症の影響により、オアシス入所当初はコミュニケーションも消極的で、お食事以外はベッド上で過ごしている状況でした。

言語のリハビリは、ご本人、ご家族様ともに「良くなる見込みがないので受けません」とお話されていました。しかし、作業療法士、ケアマネジャー、看護師、介護職員から、施設内やご家族様とのコミュニケーションが少しでもスムーズに楽しく行えるようにと働きかけ、入所から約1ヶ月後、言語療法を開始。徐々に療養棟スタッフ、他入所者様とも非言語的コミュニケーションを楽しまれる様子が増えていきました。その中、ご家族をととても大切に思い、心配していることや、病前はアーティストである息子様の演奏（ライブ）を聴きに出掛けており、いつかまた行きたいと思っていることなど、ご本人様の思いを引き出すことができました。

今回、商業施設で息子様が出演される演奏会（ライブ）があったため、何とか行けるようにしたいと職員間で検討。演奏会まであまり期間が無いなか、介護タクシーの手配など行い、職員2名付き添いのもと無事に演奏会に行くことができました。

事前には着ていく洋服のコーディネートを楽しんだり、当日はお化粧やネイルもされ、ずっと願っていた息子様の演奏をすぐ側で聴くことができ、とても喜ばれていました。

息子さんのライブでは涙を流して聴かれており、片麻痺で拍手ができないため、職員の片手を借りて拍手されていました。

ご本人の思いを多職種で聞き出し、情報の共有と連携から実現できたと思います。

ご主人から、初めての外出で不安がありましたが、同行してくれたことで安心できました。妻の笑顔が見れてよかった。と感謝の言葉をいただきました。その後、演奏会に外出した時の写真をアルバムにしてご本人にプレゼント。現在は宝物にしてくれています。）

今回の演奏会への参加を境に、オアシスでは非常におしゃれに気を使うようになられたり、職員にVサインを送ってこられたり、施設での生活自体に大きな変化が現れました。

ご利用者の希望を聞き取り、それを実現した輝きの1日だけでなく、その後の施設での生活が活性化できたことはキラキラ介護賞に値すると思い推薦いたします。